

本町の小中一貫教育の定義

『小学校と中学校が目標を共有し、小中の教職員が一体となって、学習指導や生徒指導等に組織的、系統的に取り組み、義務教育9年間の連続性のある指導を行うことで、義務教育を終了するにふさわしい学力と社会性を育成する教育』

小中一貫教育の導入が求められる背景

- (1) 教育内容や学習活動の質的・量的充実への対応
- (2) 身体的発達の早期化等に関わる現象への対応
- (3) 生徒指導・学習指導上の問題等への対応
- (4) 社会性育成機能の強化の必要性
- (5) 学校現場の課題の複雑化・多様化
- (6) 小中一貫教育の制度化

(7)本町における必要性：
求められる義務教育9年間を見通した質の高い教育活動

▶小中一貫教育の推進

園小接続の円滑化、小・小連携、小・中協同授業の取組の課題

*導入の意義：小中一貫教育を手段として、現在の取り組みを更に高める。

- 確かな学力の育成
- 豊かな人間性の育成
- たくましい心身の育成
- 多様な個性やニーズに応じた一人一人が大切にされる教育の推進
- 地域や社会とつながる「ふるさと吉野への思い」を育む教育の推進

*義務教育9年間を終える15歳の子供像

9年間の一貫した義務教育によって自らの可能性を引き出す、確かな学力・豊かな人間性・たくましい心身を備え、ふるさと吉野で育ったことを心の糧に、夢と希望を実現する志の下、自信と誇りをもって、力強く生き抜く子供

小中一貫教育実践の柱①

小・中学校の教職員、保護者、地域での「めざす子供像」の共有

小中一貫教育実践の柱②

中学校卒業までを見通した一貫した指導

小中一貫教育実践の柱③

吉野町の魅力ある豊かな教育環境づくり

小中一貫教育実践の柱④

子供同士や教職員間の交流と協働

学びをつなげる

- ・現行の教育制度(6・3制)と学習指導要領を基本に、子供たち一人一人の発達段階に応じた指導
- ・学習方法、学習習慣等定着に向けた指導・本町独自の魅力ある一貫性のある教育課程の編成
- ・ICT環境の整備と効果的な活用
- ・特別支援教育の充実

生活をつなげる

- ・9年間の学校生活での学習規律、生活規律の定着
- ・豊かな人間関係を醸成する児童生徒等の交流活動等の充実・心身の成長を実感できる仕組みづくり

9年間の学びと生活をつなげる環境づくり

- ・小中一貫教育の効果を引き出す施設環境づくり
【施設一体型小中一貫教育校整備：吉野小学校と吉野北小学校を統合し、現吉野中学校敷地内に小学校施設を増築】
- 小中一貫教育校開校時期：2022年(H34)年度
- ・学校、家庭、地域が一体となった豊かな教育環境づくり